



「ごめんなさい」をすること

◎何か良くないことをしたり、他の人に迷惑をかけたときは、謝ることが良いことは誰もが知っていることです。しかし、絶対に「ごめんなさい」を言わない子供がいます。すると、大人は何とか謝らせようとして、子供と大人の新たな“戦い”がまた勃発するという悪循環が始まります。謝ったとしても「はいはい、あたしが悪うござんしたよ」と、ふざけたりします。

◎どうしても「ごめんなさい」を言わない子供たちの多くに、ある特徴があります。

- ふだんから叱られることが多い
- 褒められることはなく、「自分はダメ」だと思っている
- 自信がない
- 人を信頼できない

◎この場合、「ごめんなさい」を言う練習だけしても、あまり意味がありません。相手に対して「すまなかつた」という感情が伴わなければなりません。対策としていくつか御紹介いたします。

- 褒めることはもちろんだけど、褒めないまでも子供に「ありがとう」の言葉を多くかける。
- 大人自身が必要な時は「ごめんなさい」をきちんと言うようにする。
- 子供と大人と一緒に楽しんだり笑ったりする機会を作る。(共感)
- 子供が意地になって「ごめんなさい」を言わなくても、あまりに長時間“格闘”はしない。

※私の場合は、「代わりに言っておく、ごめんなさい、だね。はい、次に行こう」と、さらりと言って終わりにします。

◎これは即効性のあるものではありませんが、やがて子供は自分から「ごめんなさい」を言うようになります。もし、なかなか「ごめんなさい」が言えなかった子供が、「ごめんなさい」を言えた時は、きちんと評価してあげましょう。私の場合は、「ごめんなさい、を言うことは勇気がいるのに、言えたね」と言ってあげます。

※「こころのお便り」は、情緒通級の現役教諭が原稿を書き、深大出版で編集しています。

子育てに悩む保護者の方、児童を理解したい先生等どなたでもプリントしてお使いいただけます。